

2005年に津田沼駅南口からダイエーが撤退した跡地へとイオンを核としたモリシア(野村不動産)が3月13日に開店15万人の人出だったとの情報でしたので早速出かけてみました。

開店から10日目の平日午後2時頃でした。

客数は一階の食料品店はにぎわっていましたが二階の衣料品は客がまばらで、むしろ向い側のパルコの方が客は多く見られました。三階に出店予定のヤマダ電機は4月開店となぜか遅れていました。4階以上は各種テナントが入っていましたが、必要性があってなのか、或いはかなり無理をしての出店揃えをしたのではないかと私は感じられてなりませんでした。

各メーカー、専門店も大型モールの過大な拡張、わがままに対してついて行けなくなっているのではないかと思いつつ帰って来ました。

数日後、清和の本庄高士君の個展が麻布のRKRで催されたのでお祝いながら、今話題を呼んでいます赤坂サカスへと廻ってきました。

サカスとは「赤坂に新たな文化と人の笑顔を咲かす、三春桜の花を咲かす」いくつもの坂のある「坂S」が名前の由来だそうです。一見して安藤忠雄の設計かなと見間違えるほどよく似た景観でした。

私が見たかったのは赤坂B1Zタワー38階の地下一階に出店したセブンイレブンとマツモトキヨシがありました。

そのセブンイレブンの店は、コンパクトな、言わば色気のない店でアイテムも…オフィスビルに勤め人の必需品だけ品揃えした店で、冷凍ケースなどは空スペースが目立ちました。

マツモトキヨシもまた同じ様な品揃えで、高級ビル街の店はどんな店だろうと興味を持って行った私には無味なものでした。

でもこの店から得たヒントは、これからの小売店は、病院、学校、事業所、オフィスビル等に寄生虫の様に5~10坪の小さな店で張り付く形で変わって行くのではと思わせる予感がありました。

この方法は大型店イオンを迎える対策の一つかもしれません!見終わって2時少し前でした。

地下一階のレストラン街はまだまだ長蛇の列でしたので、ビル街の裏の日本そば屋で昼食となりました。食事が終って、店の娘に「銀座へ出たいが」と聞きましたら、もう店も混んでおりませんからと地下鉄の駅まで案内してくれました。

都心赤坂の街の中にもこんな親切がまだまだ残っているのかとほのぼのとした気持ちでした。小さな店にも華やかなビルの店に決して負けない素晴らしいものがあった、今度赤坂に来たら絶対この店にしようと思いつつ帰りました。人の心に優る美しいものはないと孫娘の様な店員に教えられました。